

梅のにおい

夢野久作

青空文庫

一匹の斑猫^{ふち}が人間の真似をして梅の木にのぼって花を嗅いでみました。あの枝からこの枝、花から蕾といくつもいくつも嗅いでみましたが、

「ナアーンダ、人間がいいにおいだ、いいにおいだと言うから本当にして嗅いでみたら、つまらないにおいじゃないか。馬鹿馬鹿しい、帰ろう帰ろう」

と樹から降りかかりました。

「ホーホケキヨ、ホーホケキヨ」

「オヤ、鶯がやって来たな。おれは一度あいつをたべてみたいと思っていたが、ちょうどいい。ここに隠れてまつていてやろう」

「ホーホケキヨ、ホーホケキヨ、ケキヨ、ケキヨ、ケキヨ、ケキヨ、ケキヨ」

と言ううちに鶯は、斑のいる梅の木のすぐそばにある梅の花のたくさん開いたほそい枝の処へ、ヒヨイととまりました。

「鶯さん鶯さん」

と猫なでこえで呼びかけました。

「オヤ斑さん、今日はいいいお天気ですね」

「ニヤーニヤー、ホントにいいお天気ですね。それにこの梅の花のにおいのいいこと。ほんとにたべたくなるようですね」

「オホホホホ、イヤな斑さんだこと。梅の花に美味しいにおいがしますか」

「ええ、梅のにおいをかぐとおなかの急にすくようです。あなたはどんなにおいがするのですか」

「あたしはねえ、梅のにおいを嗅ぐと何とも言えないいい心持ちになって、歌がうたいたくなるのです。そうしてあちらこちらと躍りながら飛びまわりたくなるのです」

「へエ、さようですかね。そう言えばあたしも何だか踊りたくなったようです」

「まあ、おもしろいこと。一つおどつてみせてちょうだいな」

「いいえ、あたしはあなたの着物のにおいを嗅いだら一緒に踊りたくなったのです、本当にあなたのにおいを嗅ぐといいところもちになります。どうです、一緒に踊ろうじやありませんか」

「いやですよ。あなたと踊るのはこわい」

「何故です。ちつとも怖い事はないじやありませんか。もつとこっちへきてごらんなさい」

「イヤですよ。妾のにおいを嗅いで踊りたくなったと言うのは嘘でしょう」

「どうして」

「たべたくなつたんでしよう」

と言おうちに鶯はパツと飛び出しました。

「しまった」

と斑が飛びつきますと、ドタリと地べたへ落ちてしまいました。

「ホーホケキヨ、ホーホケキヨ」

と鶯は隣のうちの梅の木で鳴いていました。

青空文庫情報

底本：「夢野久作全集」三一書房

1970（昭和45）年1月31日第1版第1刷発行

1992（平成4）年2月29日第1版第12刷発行

初出：「九州日報」

1924（大正13）年2月4-5日

※底本の解題によれば、初出時の署名は「香俱土三鳥」です。

入力：川山隆

校正：土屋隆

2007年7月21日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

梅のにおい

夢野久作

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>